

平成21年度 病害虫発生予察技術資料 第2号

平成21年 7月13日
島根県病害虫防除所

イネ縞葉枯病が県内各地で発生。ヒメトビウンカの発生に注意を！

6月9日に初発生が確認された後イネ縞葉枯病の発生は県内各地に拡大しており、7月8日現在、13の市町で感染株（イネ縞葉枯病ウイルス保毒株）が認められています（表1）。

発病程度は、一部地域では発病程度のやや高い圃場も散見されますが、多くは畦畔沿いに数株程度の発病となっています（表2）。

一方、定点におけるヒメトビウンカの寄生密度の推移をみると、ピークを迎えた第1世代成虫期以降減少傾向を示したものの急激な低下は認められず（図1）、発生の多い圃場では今後も伝搬活動が続くことが懸念されます。

幼穂形成期を迎えていない品種では発病程度が高まる可能性があるため、発病株の抜き取りを行うと同時に、媒介虫であるヒメトビウンカの発生状況等の把握に努めてください。

表1 イネ縞葉枯病の発生が確認された市町

松江市、東出雲町、安来市、雲南市、出雲市、斐川町、浜田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、大田市、益田市

注) ウイルス検定により感染株が確認された地域

表2 イネ縞葉枯病の発生状況

	調査圃場数	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
県東部	277	5.4	0.3 (37.0)
県西部	153	10.5	0.4 (28.0)
計・平均	430	7.2	0.3

注) 6月25日～7月7日、畦側100株調査
() 内は圃場別の最大値

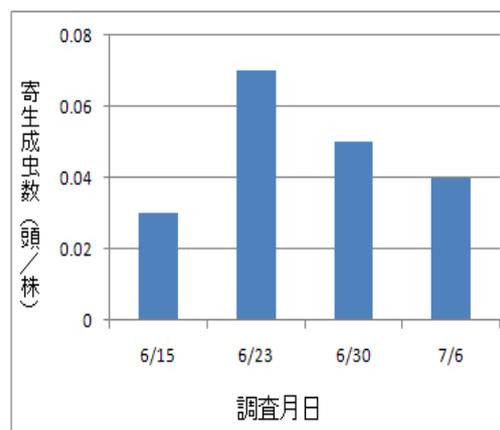


図1 ヒメトビウンカの寄生推移